

集落営農かわら版

平成27年1月1日 VOL. 23
大分県西部振興局農山村振興部
大分県集落営農推進西部支部

農機具の長期格納前のメンテナンスは大丈夫ですか？

農機具は使用により各部磨耗等をしていきますが、長期格納中にも自然劣化していきます。適正な整備で機械を少しでも長持させるために格納前のメンテナンスを徹底しましょう。

また、整備不良等で作業の遅れや事故・ケガ等おこさないためにも、メンテナンスは大切です。

■長期格納（来シーズンまでの保管）

長期間エンジンを使用しない場合は、取り扱い説明書に従って整備を行ってください。

【ポイント】

①残った燃料は抜き取る。

燃料が残ったままだと、燃料の劣化等でキャブ詰まり、始動困難、燃料不足でエンジンのハンチング等が発生します。燃料タンクの燃料はポンプで抜き、残った燃料はフィルタポットを外して排出してください。

②サビ止めをおこなう。

サビは機械の寿命を縮め故障の原因となります。肥料、堆肥がサビを増長するため、ロータリー、田植え機、作業機等は特に丁寧なサビ止めを行うことが必要です。乾燥機、糞摺機等はネズミや猫による尿の影響でサビやすくなります。

③バッテリーを取り外す。

バッテリーを付けたままだと、放電しエンジンがかからなくなります。シーズン後格納する前に液の量を確認し、不足している場合はバッテリー液を補充し（中に埃を入れないよう注意）、補充電をおこなってから、－（マイナス）極から取り外しましょう（取り付け時は＋（プラス）極から取り付けます）。また、＋・－ケーブルの端子や電極のサビ等も落としましょう。



農業情報メールのご案内

西部振興局では水稻・麦・大豆の栽培情報等をメール配信しています。

パソコンでもスマホでも受け取れます。

例えば・病害虫の多発が予想される時や防除適期

・天候不順時における対策 等の情報をお知らせしています

登録方法は以下の宛先に①氏名②お住まいの集落③所属していれば集落営農組織名を本文に書いて、メールを送ってください。（件名はいれなくても構いません）

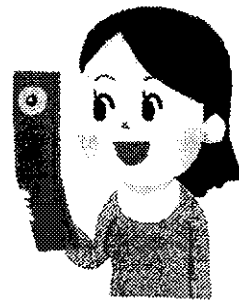
宛先：nosan-seibu@pref.oita.jp

*大分県情報セキュリティ基本方針及びその他の関係規程を遵守し、登録されました個人情報については、登録者の了承を得ない限り農業情報の提供以外の目的には利用しません。

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落・水田班

監 修 大分県集落営農推進西部支部

TEL：0973-22-2585 FAX：0973-23-2219



26年産水稻の反省と27年産の対策

26年産の水稻の作柄は、大分県では97と3年連続でやや不良となりました。県内では西部地域が最も低く、九州内では佐賀が94の不良、福岡でも96のやや不良の予想で、昨年に続き平年を大きく下回っています。26年産の概況と併せて27年産の対策についてまとめましたので、参考にしてください。

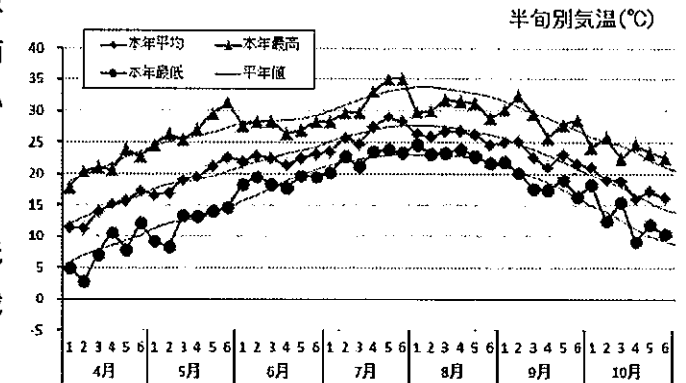
1 平成26年産水稻の概況

日田玖珠地域での10月15日現在の水稻の作況指数は、「96」の「やや不良」と予想されています。長雨による低温と日照不足で穂数が少なく、もみ数も少ないながら登熟は平年並みの予測からこのような予想となっています。

出穂の時期は平年より1週間以上遅くなり、気温の低下も平年より早く成熟も2週間以上遅くなっている地域が見られ、登熟不良の地域も見られました。

特に、早生品種で品質、収量が大きく低下しました。

アメダス気温の推移(日田)



(1) 育苗

は種時期は平年並みでしたが、4月の気温がやや低めに推移したため、中山間地では、育苗期間が長くなり、一部でムシやカビ等による苗立枯病が見られました。5月の高温で、苗の徒長も目立ちました。

(2) 田植えから生育前半

田植時期は平年並みで、5月移植は、日照不足の影響から軟弱徒長気味に推移し初期生育が遅れました。6月移植では、7月の天候回復で平年並みの生育が確保されました。6月中旬と7月に入っての断続的降雨により中干しが十分出来ず、初期除草剤が十分な効果を上げられなかった田んぼも目立ちました。

6月下旬からいもち病の好適条件が何度もそろい、山間部中心に葉いもちが発生しました。その後穂いもちへ被害が拡大していきました。

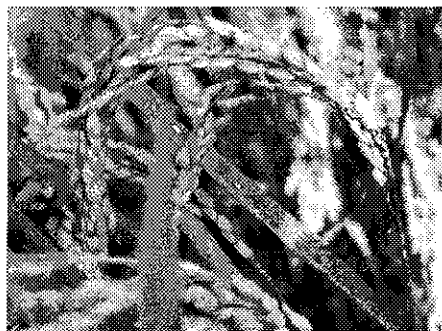
(3) 生育後半～収穫

ひとめぼれは、穂数も少なく、もみ数も少なかったことに加え、いもち病の被害や登熟期間中の日照不足などにより、登熟も十分でなく大きな減収、品質低下となりました。穂いもちが多発したことや倒伏などから充実も十分でないなど品質も平年より劣るものが多く、1等米比率も平年より低下しています。

新品種のつや姫はカメムシ類による被害がありましたが、収量は平年より高いものになりました。

(4) 病害虫

いもち病が、早生品種の「ひとめぼれ」を中心に多発し、被害割合が30%以上の著しい被害のあった田んぼも見られました。また、低温で長雨であったことから、稲こうじ病も各地で散見されました。



穂いもちにかかった穂

2 次年度に向けての対策

不良だった26年産米でも、平年並の収量、品質のところもありました。基本管理の違いが少しずつ積み重なり、気象変動が大きい年では収量や品質への影響差が大きくなっているようです。気象に左右されにくい米づくりに向けて、どこが不十分だったのか、来年に向けて基本管理をもう一度確認してみましょう。

(1) 健康な苗づくり(種子消毒と塩水選)

良い苗をつくるには、良い種子を使ったほうが健康な苗にできます。購入種子でも、自家採種した種子でも、いもち病など見えない菌が付着している恐れがあります。必ず塩水選と種子消毒を行きましょう。近年育苗期間中の気温変化が大きい傾向にあり、育苗期間中の温度管理が悪く、徒長苗や病害など生育障害を起こすことが増えています。高温管理は致命傷です、暑いより涼しいくらいの温度管理を目安にしましょう。

育苗箱施薬の種類ややり方で病害虫の初期発生での差がみられました。1箱あたり50gという適正量より少なかったり、当日あわてて散布したり、苗が薬を十分吸収していなかったりすると効果が発揮できません。少なくとも前日に育苗箱用薬剤を撒くことが必要です。

(2) もみ数の確保と水管理

適正なもみ数を確保することと、品種の特性に応じた水管理をしましょう。「ヒノヒカリ」は穂数が確保されやすい品種ですが、生育期間の短い早生品種は穂数が足りない傾向にあります。中山間地域では水温が低く分けつが進みにくい地域もあるので、水の引き入れに工夫したり水持ちをよくするなど茎数の確保に努めましょう。

(3) 土づくりとケイ酸資材の投入

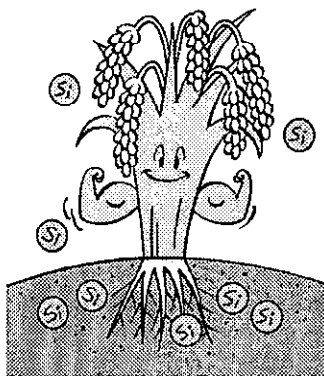
高温だけでなく低温の影響を少なくするためにも土づくりを行きましょう。堆肥の投入は有効ですが、一度に大量に入れると逆効果となります。堆肥は化学肥料のように1年で使い切ることはなく30%くらいしか利用されません。残った成分は年数をかけて少しずつ使われていきます。堆肥は10aで1.5~2tが適量です。

ケイ酸資材を施用することでいもち病の発生や倒伏を軽減することができます。用水でケイ酸分も補給されますが1年おきでもケイカル、ミネラルGなどのケイ酸資材を施用しましょう。

(4) 病害虫対策

本年は、葉いもちも穂いもちも多発しました。いもち病にかかってからでは遅いので、苗箱施薬、本田防除で発病前の予防に心がけましょう。ヘリ防除ができない場所では出穂前の粒剤防除が効果的です。

稲こうじ病が多発したほ場には土壌中に多数の胞子が残り土壌伝染するので、翌年の発生も多くなる傾向があります。稲こうじ病は出穂前のモンガリット粒剤による薬剤防除が効果的です。さらに、出穂10日前までに本田防除を行うことで発生を減らせます。薬剤については、農協や農薬販売店に確認してください。



鳥獣害対策

鳥獣にとって冬場は山に餌が少なくなる時期です。冬場こそ、集落に鳥獣を寄せ付けないように対策を取りましょう。

1. 集落に餌場を作らない！！

ひこばえや野菜の収穫残渣は重要な餌になります。収穫後に発生するひこばえや残渣はすき込むなどして餌にならないようにしましょう。収穫されない果樹(柿や栗等)なども、そのまま餌となってしまいます。残さず収穫するか、収穫しない果樹は伐採しましょう。また、家の近くの竹藪などに捨てる生ゴミなどは、餌になるだけでなく集落に鳥獣を呼び寄せる原因になりますので捨てないようにしましょう。

2. 隠れ場所を作らない！！

休耕地や耕作放棄地は格好の隠れ場所になったり、田畑への侵入口になります。草刈りなど適正な管理を行いましょう。山際の草木の伐採などを行い見通しを良くすることで、集落に出てきにくい、隠れにくい環境を作りましょう。

3. 防護柵の点検！！

(1) 電気柵

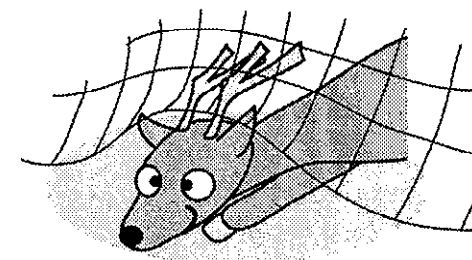
イノシシの鼻が電線に触れることでショックを与えます。電気柵を効果的にするには、電線の高さが重要です。地際から20cmと40cmの位置に電線が張られているか確認しましょう。高さがズレていると、簡単に侵入されてしまいます。併せて、ガイシが外側(イノシシ等の侵入側)に付けられているか確認しましょう。

(2) メッシュ柵・金網フェンス・ネット柵

設置場所や張り方を間違えると容易に侵入されてしまいます。設置場所が、林縁部から2m以上離れているか確認しましょう。林縁部に近すぎると、柵を跳び越えやすくなります。また、金網フェンスで地際部に隙間があると侵入されます。イノシシの鼻は柵を持ち上げて折り曲げるほどの力があります。地際の網を30cm程度折り曲げて隙間が空かないようにしましょう。

※シカは潜る・・・

実はシカは潜ることが多いです。始めは潜ることを試みて無理なら飛び越えようとします。イノシシ等が空けた地際部の隙間などからシカも潜って侵入します。シカが頻繁に出る集落では、特に地際部の隙間に注意しましょう。



4. 集落ぐるみで取り組みましょう！！

鳥獣害対策の取り組みは、集落のみなさんで話し合い、共通意識を持って取り組むことが重要です。みんなで点検し被害情報や点検箇所について情報を共有しましょう。持ち寄った情報を地図に落としてみると、集落の弱点がわかりやすくなります。鳥獣はしつこくやってきます。集落で粘り強く対策に取り組むことで被害の軽減が期待されます。